

平成 25 年度 生駒市行政改革推進委員会  
第 4 回第 1 作業部会 会議録

開催日時 平成 25 年 9 月 13 日（金） 午後 3 時～午後 5 時  
開催場所 生駒市役所 4 階 402 会議室

出席者

（委 員） 松山部会長、藤堂委員、岡本委員、楠委員  
（事務局） 今井企画財政部長、西川企画政策課長、岡田企画政策課課長補佐、牧井企画政策課主事、石村企画政策課係員

傍聴者 なし

1 開会

2 案件

(1)補助金等の個別検証結果の確認

《1 自己啓発助成金》

（楠 委 員） 2 段落目について、「～近年の交付実績の低迷を踏まえ、担当課においてもアンケートの実施によるニーズの把握等、一定の～」と修正した方が分かりやすい。

（各 委 員） 了承

（松山部会長） 「平成 18 年度の補助金の見直しを踏まえて創設された制度」と記載されているが、それ以前から同様の制度はあったのではないか。

（事 務 局） 昭和 57 年に職員通信教育に対する助成、平成元年に職員資格取得に対する助成が創設された。平成 18 年度の補助金の見直しを受けてこれらを統合し、平成 19 年度に自己啓発助成金が創設された。

（松山部会長） この内容で良いか。

（各 委 員） 了承

《2 自治会長研修費補助金》

（楠 委 員） 藤堂委員の意見は含まれているのか。

（藤 堂 委 員） この内容で構わない。今後地域に対する新たな補助制度が再構築される際に、必要な研修に対して補助される制度にしてほしい。

（岡 本 委 員） 生駒市の自治連合会は何地区に分かれているのか。

（藤 堂 委 員） 北・南・東・西・中の 5 地区である。

- (岡本委員) 自治会長の研修以外に、各地区の自治会が集まって話し合うことはあるのか。
- (藤堂委員) 北地区では、独自で研修会等を実施している。外部から講師を招くだけでなく、それぞれの自治会活動について発表を行い、問題点等を話し合う機会を設けている。自治会長の研修でカバーできない部分は独自の研修等で補っている。
- (松山部会長) 自治会長の研修は、すぐに自治会活動に影響を及ぼすものなのか。
- (藤堂委員) もちろん研修の内容によっては、即効性のある研修と即効性はないが将来を見据えた研修がある。
- (松山部会長) 126ある自治会それぞれで運営方法は様々だとは思う。
- (藤堂委員) 活動が活発な自治会とそうでない自治会に差があるが、活動内容等についてのアンケートを定期的実施している。今は全ての自治会が会則を定めており、そこに規定された方法で決算報告等をしている。自治会活動に参加していない人の中には、自治会が何をしているのかわからない人も多い。もし、自治会に問題を感じているのであれば、外から意見のみを言うのではなく、自治会活動に参加して、内部から改革をしてほしい。
- (岡本委員) 立候補制で自治会長を決めると、やはりワンマン的な部分が強くなってしまっているので、今は順番で自治会長を回している。しかし、順番にすると地域の課題が分かかってきたところで交代となってしまうっており、なかなか課題の解決まで行き着かない。
- (藤堂委員) 以前は地域の昔からの住民に意見を聞かないと何も決められなかったという話を聞いたことがあるが、今はだいぶ変わっている。一番の弊害は、自治会がそういった閉塞的な組織であるというイメージを持っている人がいることである。
- (岡本委員) 今では NPO 化している自治会もあると聞く。研修に行った成果が市民に伝わらなければ、なかなか市民の理解は得られない。市民のチェック機能を働かすためにも、研修は自治会費で行くべきではないか。
- (藤堂委員) 自治会費で研修費を出しても、チェック機能が働くとは思えない。それよりも、こういったことが課題なのでここへ研修に行くべきであるといった意見を自治会員から出してほしい。
- (松山部会長) 全国で一番良いと言われている自治会に研修に行ってもらいたい。
- (岡本委員) 例えば池田市は地域協議会が活発に機能していると聞くので、そういった地域へ研修に行ってもらいたい。
- (藤堂委員) 今まで視察に行っているが、良い場所があれば検討したい。
- (松山部会長) 案のとおりで良いか。

(各 委 員) 了承

### 《3 友好都市宿泊補助金》

(松山部会長) 案のとおりで良いか。

(各 委 員) 了承

### 《4 環境基本計画推進会議補助金》

(松山部会長) 会員数の拡大について、話になったと思う。組織の立ち上げの際には市が補助する必要があるが、今後市がどのように関与していくのが良いのか。

(楠 委 員) ECO-net 生駒の会員として、代表へ次のように進言した。「他の補助金見直し対象では、10~20万円の助成金をもらうことすら厳しい状況である。300万円以上の補助金をもらっているからには、何らかの成果を出す必要がある。会員として中から組織を見ていると、総花的な計画はあるのだが、それを実現するための毎年の具体的な計画がない。毎年の目標を明確にして、市民に訴える必要がある。今の組織では、会費を払ってまで会員になろうという魅力がない。」

(藤 堂 委 員) 環境審議会では、ECO-net 生駒の活動は、評価をしようと思っても目標値が不明確なので評価しにくいという話が出ていた。

(楠 委 員) 市は市民がもっと自発的に取り組むべきだと思っているが、長年ECO-net 生駒に関わっている会員は、何か活動をしようと思っても、市が反対するので進まないと言っている。市と会員の間ですれ違いが起こっている。お互いに連携を取って、目標に向かって進んでいく必要がある。

(藤 堂 委 員) 市民自治協議会の立ち上げに関しても、市は支援すると言ってくれているが、実情としては、相談に行ってもたらい回しにされるケースがある。金銭面ではなく、人的な支援が必要である。市民活動推進課の職員だけでなく、他課にも地域の課題に対して相談に乗ってくれる職員がいてほしい。

(松山部会長) この補助金に関しては、いつまでも補助し続ける訳ではないという認識を持って補助してほしいということだった。案のとおりで良いか。

(各 委 員) 了承

### 《8 商工会議所補助金》

(松山部会長) 22年度に実施した補助金の見直しで、課題を指摘したにも関わらずこの3年間で何も改革していない点が問題である。案のとおりで良い

か。

(各 委 員) 了承

《9～11 特産品振興補助金（茶釜・編針・茶道具）、12 伝統的工芸品育成補助金》

(楠 委 員) 協会側から、こういった事業をしたいので補助をしてほしいという要望が出てきてほしい。

(松山部会長) 現在の検証シートは市職員が記載しているが、次回からは補助金の交付先の意見も記載してほしい。

(楠 委 員) 高山町はアクセスがあまり良くないため、そこまで足を運んでくれる人はなかなかいない。生駒駅北口の再開発ビルに地域振興や環境啓発のための場所を設けることが計画されている。そこで週1回呈茶をする等、茶釜をアピールする機会をつくってはどうか。環境や観光等に関する様々なイベントを集めて、毎日何かしらの催しを実施してほしい。

(松山部会長) 組合の方が積極的に実施してくれば良い。

(楠 委 員) まずは体験してもらうことが大切だと思う。

(松山部会長) 応援したいという気持ちはある。それぞれの団体から事業を提案してもらい、この補助金をしっかり活用してほしい。案のとおりで良いか。

(各 委 員) 了承

《13 中小企業債務保証料補給金、14 中小企業融資制度利子補給金》

(岡 本 委 員) 債務保証料補給金は信用保証協会に補助金を交付しているので、直接的な効果が認められない。しかし、いきなり廃止すると現在補助金を受けている事業者等に影響が及ぶことから、廃止することを早期に提示しておく必要がある。

(松山部会長) 案のとおりで良いか。

(各 委 員) 了承

《15 人権教育研究会補助金》

(松山部会長) 案のとおりで良いか。

(各 委 員) 了承

《21 花と緑のわがまちづくり助成制度補助金》

(松山部会長) 終期がH29年度となっているのはなぜか。

(事 務 局) 指針において、原則として補助金は3年を終期として設定すべきと

規定している。この補助金は今年度末に終期を迎えるが、そのまま継続することを希望されており、そうした場合、次回の終期が H28 年度であるため、H29 年度と記載している。

(藤堂委員) 将来的にはボランティアがふるーらむで花苗の栽培をし、それを公共の場所に植えることはできないか検討をしていると担当課は言っていた。

(松山部会長) 案のとおりで良いか。

(各委員) 了承

#### 《27 消防団員互助会補助金》

(松山部会長) 市職員の互助会に対する補助金は廃止になったはず。学校教員や保育士等の互助会にも補助をしていないのか。

(事務局) 保育士は市職員なので補助をしていないが、学校教員は県職員であることから把握していない。

(松山部会長) 交付した補助金の使途の明確な情報開示に努めてもらいたい。

(岡本委員) 1 点目について、この書き方では、なり手が不足しているから補助金を交付しているという印象を持たれるので、「消防団が地域で果たしている役割を考慮すると、補助金を交付する必要性は認められる。」と修正してほしい。また、4 点目について、誰の事務の効率化を図るためなのかを記載する必要がある。

(事務局) 3 点目の「しかし」を削除し、「本来消防団員の活動は～考えられるところであるが、市が直接事務をするとした場合の事務の煩雑化を避けるため、補助金として～」と修正する。

(松山部会長) 第 1 作業部会と第 2 作業部会で判断に差はあったのか。

(事務局) 同様の方法で実施しているため、それほど差はない。第 2 作業部会では、市民全体への効果の還元についての意見があった。

(楠委員) 高齢者交通費助成金については、高齢者の積極的な社会参加を目的としているにも関わらず、目的に合った使用がされていないのであれば、必要ないのではないか。

(藤堂委員) 自家用車で移動できる高齢者は良いのだが、そうでない人に対する支援が必要である。そういった人への補助に特化してはどうか。

(岡本委員) この補助金を廃止して、小さいバスを購入して地域で走らせるといったことをしてはどうか。

(松山部会長) 税金の使途に世代間格差があるように思う。

(事務局) 保育所の増設など、今は子育て対策にも力を入れている。補助金の

交付を何年も続けていると、交付されることが当たり前になってしまうので、個人に補助するよりもコミバスの整備等の施策に使う方が、長い目で見れば良いのかもしれない。

(岡本委員) 高齢者に納得してもらうためにも、ただ廃止するのではなく、コメントにもあるように代替措置とセットで条件をつけるべきである。

(事務局) 来年すぐに廃止というのは難しいと思う。

## (2)作業部会を通しての見直しにおける課題と今後のあり方の検討

(松山部会長) 検証シートを見ていると、現状維持の意見ばかりで見直しすべき点等の意見がほとんどない。補助金が本当に必要なのか、効果的に機能しているのか等、担当課がもっと精査すべきである。

(事務局) 担当課としては、見直しが必要な場合はその都度していると思うので、シートに見直し等が必要と記載する担当課はないのではないかと。

(松山部会長) すぐに廃止とははならなくても、いずれは廃止すべきだと思っているといった意見があっても然るべきではないか。

(事務局) 例えば、市民活動推進課の友好都市宿泊補助金については、平成27年3月に見直しを行う予定と記載している。

交付を受けている団体等の意見把握については、次回の見直しの際に、様式を検討したい。

(岡本委員) 委員会で「廃止」と判断しても、内部で検討した結果、結局廃止されないこともあると思うので、そういった場合は委員会にフィードバックしてほしい。言いつばなしでは意味がない。

(松山部会長) 高齢者交通費助成金等の交付先が多数である場合は難しいが、社会福祉協議会補助金等の特定の団体へ補助金を交付しているものについては、交付先団体に直接意見を書いてもらうべきである。例えば、「補助金を廃止した場合、どういった問題があるのか。」といった設問にはできないか。

(事務局) 次回実施する際に、検証シートに交付先団体の意見を記載する欄を設けることも検討したい。

(楠委員) 本来であれば、委員会が審査を行う前に、担当課と交付先団体が話し合っ、何か見直しができないか検討がなされるべきだと思う。

(事務局) 少なくとも行政改革推進委員会で見直し対象となったものについては、担当課内で検討していると思う。

(松山部会長) 委員会での検討も必要だが、市内部でも補助金の必要性について検討すべきである。市内部で見直したことはあるのか。

(事務局) 市内部でも平成24年度に事務事業の見直しを行っており、老人クラ

ブ補助金等、市内部の見直しにより廃止や減額した補助金はある。予算査定の際にはチェックが入るので毎年度見直しはしている。

- (松山部会長) そういったことも提言の中に記載してほしい。
- (藤堂委員) 補助金の交付先団体が、補助金を有効に活用できているのか検証する必要がある。よかれと思って実施している事業でも、受け手からすれば、不要なものかもしれない。そういった点も各団体で検証する必要があると思う。
- (岡本委員) 交付先団体と担当課が補助金の必要性について検討する際に、補助金の交付による効果を提示してもらってはどうか。
- (松山部会長) 交付先団体に記載してもらってチェックシートを作成すれば良い。本来であれば、各団体自身で検証すべきだと思う。
- (事務局) 各担当課でも検証を実施していると思う。この委員会に任せっきりという訳ではない。
- (松山部会長) 補助金の交付先団体の意見を聞きたい。
- (事務局) 提言書の「見直しにおける課題と今後のあり方」の項目で、検証方法に対する改善策を記載してはどうか。
- (松山部会長) 提言に沿った対応ができないものも出てくるだろう。対応できていないものについては、理由を聞くなどのフォローアップをしていきたい。
- (事務局) 平成 26 年度の予算時点での状況を報告させていただく。

### 3 閉会